

■活動レポート

学芸員室より／解説員室より

■学芸員室より

問い合わせ電話あれこれ

阿部守雅（歴史担当・主任専門学芸調査員）

ルルルー、「〇〇について問い合わせの電話です……」。博物館にかかってくるさまざまな電話の中で、かなりの件数をかぞえるのが、問い合わせの電話です。博物館でもレファレンスは展示室等で行っていますが、電話での問い合わせには生物・地質・歴史・考古・民俗の各分野とも学芸員が可能な限り対応するように努めています。

歴史分野への問い合わせは、当然のことながら郷土の歴史に関するものが多いのですが、最近のご自分のご先祖を捜す問い合わせを受けることがしばしばあります。これは他県にお住まいの方からの電話が多くなかなか資料を捜すのも困難なのですが、お役に立つ

資料を紹介することができて相手の方の喜びが電話口から伝わってくると、こちらも嬉しいものです。また時にはお話の中から思いがけない資料の所在を教えていただくこともあり、問い合わせ電話は情報の窓口でもあります。

夏休み、冬休みなどは小学生のお子さんたちやお父さんお母さんからの電話が多くなります。むかしのお金について、農作業について、一里塚についてなど、これもまた自由研究の題材に一生懸命取り組んでいる姿が電話の向こうに見えてきます。電話の説明だけでは不足の場合は博物館まで展示資料や参考文献を調べに来るお子さんたちもいます。このような博物館の活用は、私たちにとっても喜ばしいことです。

また、時には予想しない質問や失敗もあります。「アメリカの自由の女神を作ったのは誰ですか」。博物館を頼りに

してくれた小さな質問者を大切にしないわけにはいきません。やっと答を捜して、メモしておいた電話番号に電話して〇〇ちゃんはいますかと聞くと、「うちには〇〇という子はいませんよ」とのこと。私が電話番号を間違えてメモしたのか、〇〇ちゃんが番号を間違えたのか、連絡先がわからない。慌てて電話帳で同じ苗字で似た番号を調べてかけてみるが、だめ。再びかかってくることを期待して待ったが、その子からの電話はなし。きっと博物館からの電話を待っていたのでしょうか、がっかりさせてしまったと思いが痛む数日でした。展示、調査研究、事務処理と何かと仕事に追われる学芸員ですが、博物館を頼って電話をかけて来るお客様もまた大切にしたいものです。「ルルルー」、おっと原稿を書いている間にもまた電話。問い合わせかな？。

■解説員室より

ポスターの掲示について

今田峰子（解説員）

毎月、県内外の博物館や美術館などの各施設から展示開催案内のポスターやチラシ、年度始めの4月には年間行事案内等のポスターが数多く送られてきます。当館ではわたしたち解説員がポスターの掲示や期間に合わせての貼り替え作業、配付用チラシの設置などを随時行っています。

2階の総合展示室から特別展示室へかけての通路ぞいに岩手県内に関する情報コーナーを設けて美術館、資料館、記念館といった各施設のポスターを掲示しています。他にも民俗芸能の開催や、市町村で行われるイベント、教育機関で主催している講演会や報告会の案内といったものもあり、県内各地で行われるさまざまな分野にわたる催し物の案内をご覧いただけるコーナーになっています。続いてサービスコーナーから体験学習室へむかう通路ぞいには県外美術館、県外博物館のポスターを掲示しています。こちらのコーナーにはソファが設置してあり、通路一

面に（およそ36枚ほど）ずらりとならべて掲示してあるポスターを、腰を下ろしゆっくりご覧いただけるようになっています。限られたスペースなので送られてくるポスターの中から、まずは近隣の県で開催されるものを優先的に選ぶようにしたり、全国的に注目されている特別展や展覧会といった話題性のあるものもなるべく貼り出すよう心掛けるなどしながら掲示を行っています。展示室を見学されたあと休憩をとりながら、または移動の際少し歩みをゆるめながら、これらの掲示もお楽しみいただければと思います。

期限の切れたポスターは、お客様にご自由にお持ちいただけるよう配付を行っており、多くのお客様にご利用いただいています。掲示しているものでもご希望がある場合も受け取りに来ていただくことをご了承いただいた上となりますが、ポスターの取り置き依頼をサービスコーナーにて受け付けております。わたしたち解説員へ気軽に声をお掛けください。博物館へいらした皆様に、県内外を問わずいつでも新しい情報を得ていただける空間になればと思っています。

